

ぶどうの「べと病」に注意しましょう

平成 23 年 8 月 23 日(火)の中部地域巡回調査で、柏原市の露地ぶどう(デラウェア)で

べと病の多発生を確認しました。(下表参照)

べと病は、気温 20～25 度、多雨で発生しやすく、例年梅雨頃から発生が広がりますが、

梅雨が明け、熱帯夜が続くようになると発生は減少します。しかし秋期になり気温が下が

ると再び発生しますので注意が必要です。

べと病が蔓延し、9～10月の気温が高い時期に早期落葉すると、ぶどうが再萌芽する

ことがあります。再萌芽による貯蔵養分の消費と、落葉による次年度の養分生産の減少に

より樹勢が著しく低下し、翌年の萌芽が悪くなり、結実にも影響しますので十分注意して

ください。

収穫が終了している園が多いですが、収穫終了後も定期的にぶどう園を見回り、べと病

の早期発見・防除に努めてください。

表 べと病の発病葉率(平成 23 年8月23日調査)

調査地点	発病葉率
柏原市青谷	42.0%
平年値(8 月前半)	11.7%

対策

病害が発生しやすい時期にボルドー液(4-4 式)を予防的に散布する。

発生が多い場合は、収穫終了後にリドミルMZ水和剤を散布する。

◎防除薬剤については、

- Web 版大阪府病虫害防除指針(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報検索システム(<http://acsearch.acis.famic.go.jp/famic/>)

にて確認してください。